

9章1節3 現代文（評論）「物語を発現する力」

1 現代文（評論）「物語を発現する力」

授業者：酒井将平 2学期期末 2年生2クラス

本質目標	文章から読み取ったことを、本文とは異なった「文脈」に応用することができる。 佐藤雅彦（2011）『物語を発現する力』「考えの整頓」暮しの手帖社,p.45-55	
本質的な問い	「物語を発現する力」に限界はあるか？	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ①接続語に注目して文章の要点を関係づけることができる。 ②「物語を発現する力」を活用して、作品を創作することができる。 ③学んだ概念を他の「文脈」に当てはめて検討することができる。 	
レディネス	文章における「具体」と「抽象」の関係、指示語が示す箇所の特定方法。	
関連項目	古典、倫理、「輪廻思想」	
扱う内容	E	本文から「物語を発現する力」について読み取り、それを生かして世の中について考えたり、4コマ漫画を作ったりする。
	C	「物語を発現する力」をエピソードや格言、仕事など、具体的な事例に当てはめて考え、検討する。
	I	接続語などに注目し、「物語を発現する力」についての筆者の仮説を読み取る。
達成の手立て	フレーム構成	C1 → C2 → I → C3 → E1 → C4 → C5 → E2
		<p>C1：「因果応報」を示すエピソードに空欄を作り、セリフを考える。</p> <p>C2：接続語に注目しながら本文を読み、その機能と前後の関係を確認する。</p> <p>I：筆者が立てた仮説についてまとめる。</p> <p>C3：「中華そば店」のエピソードを読み解く。</p> <p>E1：「物語を発現する力」をいかして4コマ漫画を作る。</p> <p>C4：「因果応報」について考えることで、「物語を発現する力」について深める。</p> <p>C5：「物語を発現する力」を仕事に当てはめて考えてみる。</p> <p>E2：「物語を発現する力」の限界を考えてみる。</p>
コア(論点)	<p>「因果応報」は知っている。それでも、つい「悪い」ことをしてしまうのはなぜ？</p> <p>「因果応報」について「物語を発現する力」という概念から捉えた場合、なぜ人は「物語」を裏切ってしまうのだろう。「物語を発現する力」の汎用性と限界を考えるきっかけにしたい。</p>	
実践振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ①接続語に注目した学びのデザインにすることで、「読む」学びの大きな流れを改めて整理することができた。 ②創作活動を取り入れた楽しい学びを普通の授業の1コマにするには、1年間のデザインが大切であることがわかった。 ③異なる「文脈」に当てはめることの大切さと、担当者間の協力によって継続的な取り組みにできる可能性を感じた。 	
デザイン要素	新規、意外、刺激、探究、使命、協働、貢献、身体、面白、社会、持続	

問いの構造化

	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い	②A と B の間にどんな接続語が使われているか？ ④「物語を発現する力」に関して、筆者はどんな仮説を立てましたか？	①「因果応報」という考え方にはどんないいことがあるだろう？ ③その接続語はどんな関係を表しているか？	
洞察を促す問い		⑤「物語を発現する力」によって、本文の中の断片的なエピソードからどんなことが推測できますか？ ⑦「因果応報」を知っているのに、ついやってしまうのはなぜ？	⑥「物語を発現する力」を用いて4コマ漫画を作ってみよう。
本質的な問い		⑧「物語を発現する力」を物語以外に当てはめることは可能か？	⑨「物語を発現する力」に限界はあるか？

生徒の変容

	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	文中の接続語に注目して前後の内容の関係を特定することができる。	接続語に注目して文章の要点を関係づけることができる。	接続語を上手に使い、効果的な文章を書くことができる。
教科・科目に特有の見方・考え方	「物語を発現する力」について筆者の言葉を使って説明することができる。	「物語を発現する力」について、具体例を用いて例証することができる。	「物語を発現する力」を活用して、作品を創作することができる。
汎用的な能力	学んだ概念について説明できる。	学んだ概念について具体例を示すことができる。	学んだ概念を他の「文脈」に当てはめて検討することができる。

評価

	Ideas	Connections	Extensions
知識・技能	A・B・C・D []	A・B・C・D []	A→B→C→D—[—]
見方・考え方	A・B・C・D []	A・B・C・D []	A・B・C・D []
汎用的能力	A・B・C・D []	A・B・C・D []	A・B・C・D []

2 佐藤雅彦『物語を発現する力』を扱った国語（論評）の実践詳細

酒井将平

成果と課題

- ①接続語に注目することで、文章の要素を関係づけることができた。
- ②創作活動を取り入れることで、楽しみながら学びを展開することができた。
- ③異なる「文脈」への当てはめによって、批判的思考力へとつなげる端緒となった。

keyword：接続語、脱文脈化、遊び心

1 実践の学年、科目、授業、単位数、単元、時期、場面等は？

- 2年生の現代文（3単位）における実践。
- 2学期中間後、期末考査に向けての授業。
- 教材は佐藤雅彦の評論『物語を発現する力』[1]。

2 どんな動機や背景、課題があったか？

①文書の要素の関係づけ

2学期中間考査の範囲では、意味段落ごとに「十文字の要約」を作ることに取り組みました。生徒は、文章の要素間の関係性を捉えることに苦手意識を持っているようでした。また、接続語を補充する考査問題の正答率が低いように感じていました。そこで、接続語に注目して授業を行うことにしました。

②「読む」だけの授業

現代文の授業とはいえ、「読む」だけに終始してはもったいないと感じていました。教室という場所にいろいろな人が集まって同じ文章を読んでいることを生かすために、言葉を使わずに「書く」取り組みに挑戦しました。

③内容への無批判

本文だけを読んでいると納得して終わってしまいがちです。それでは読み取った情報を検討したり、活用したりする力につながらないので、本文から離れた場面に当てはめる取り組みをしました。

3 ICE ルーブリックへの位置づけ

①に関しては、接続語という観点を設定しました。Extensionsの到達目標を「接続語を上手に使い、効果的な文章を書くことができる」としました。

	Ideas	Connections	Extensions
接続語	文中の接続語に注目して前後の内容の関係を特定することができる。	接続語に注目して文章の要点を関係づけることができる。	接続語を上手に使い、効果的な文章を書くことができる。

②に基づいて、本文で説明される「物語を発現する力」をものの見方として設定することにしました。これを活用して「書く」取り組みを設定しました。

	Ideas	Connections	Extensions
物語を発現する力	「物語を発現する力」について筆者の言葉を使って説明することができる。	「物語を発現する力」について、具体例を用いて例証することができる。	「物語を発現する力」を活用して、作品を創作することができる。

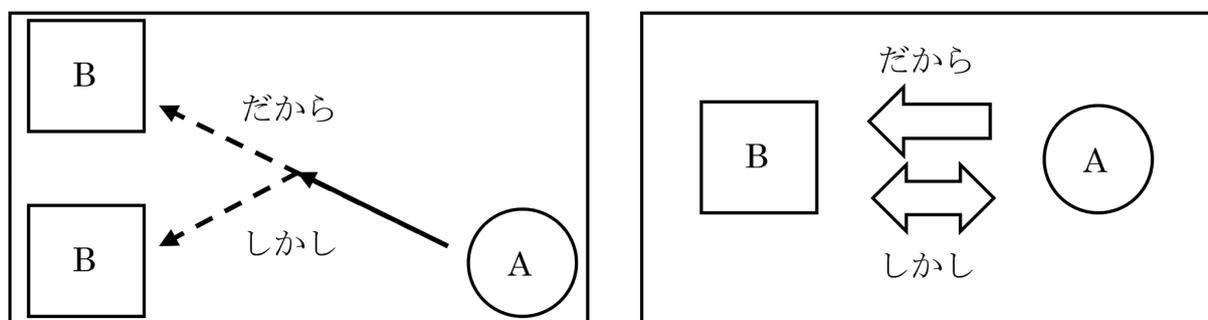
③については、他の場面に当てはめることで学びを深めます。「脱文脈化」を意識することでExtensionsの学びへとつなげました。

	Ideas	Connections	Extensions
脱文脈化	学んだ概念について説明できる。	学んだ概念について具体例を示すことができる。	学んだ概念を他の「文脈」に当てはめて検討することができる。

4 どのように実践したか？

①のために：接続語の一つひとつを取り上げ、前後の内容とのつながりを確認

接続語の機能をイメージ図で示し、前後の内容の関係を確認しました。また、接続語がなくても要素には関係性があることや、接続語が必要となる理由について考えました。定期考査では、接続語を空欄補充にして出題しました。



②のために：4コマ漫画を創作

読み取った内容を活用する取り組みとして、授業の終盤に4コマ漫画を作ってもらいました。タイトルをつけること、セリフは使わないことを条件にして、完成したら見せに来てもらいました。「物語を発現する力」との関係性を質問したり、作品へのコメントをしたりしました。

③のために：異なる「文脈」への当てはめ

本文を離れて、古典や倫理で扱う「輪廻思想」や「因果応報」、仕事への当てはめなどができないかを検討し、授業や試験で扱いました。その中で、「物語を発現する力」に限界はあるかを考えました。

仕事	物語を発現する力
作家	プロットをつくる力
探偵	犯人の動機や行動の推理力
教師	授業をつくる力

5 実践した感触はどうか？

①文章の流れに着目した授業へ

接続語に注目して内容を関係づけていくことで、文章の流れを追うことを大切にした授業になりました。流れを捉えることで、書き手の目線で文章を捉えることにつながっていくと感じました。

②「物語を発現する力」についての深まり

生徒の作品を味わいながら、どこがすごいか、何が良いかについて話し合ったり、もっと省略できる部分はどこかについて話し合ったりすることで、文章で扱われている「物語を発現する力」について深めることができました。Extensionsの活動に思いきって取り組んだことで学びに楽しさが生まれました。

③他の科目や教科とつながり

本文とは異なる「文脈」に当てはめることで、古典や倫理など他の授業とのつながりをつくることができました。現代文の教材を通じて、いろいろな先生と一歩踏み込んだ話をすることができました。

6 生徒の変容は

①接続語の問題正答率

考查問題の接続語に関する問いの正答率が上がったように感じています。授業中の接続語に関するやりとりからも、その機能や前後のつながりへの理解が次第に深まってきているように感じました。

②遊び心と学びの深まり

最初、生徒は4コマ漫画を作ることに戸惑っていました。上手な作品や面白い作品を作るのではなく、文章で学んだことをいかにすることが目的であることを伝え、「評価」という目線ではなく、「楽しむ」、「味わう」という観点から作品について話し合うことで、お互いに楽しみながら「物語を発現する力」について考える時間を過ごすことができました。

③文章との「距離感」

倫理や古典など、他の「文脈」を持ってくると、「いきなり何の話が始まるんだ？」といった表情で生徒は顔を上げていました。内容の読解に終始してしまうと、書き手の考えを理解することで終わってしまいがちです。異なる「文脈」に当てはめて考えることで、文章から「距離」をとって考えるようになったと感じています。

7 今後の課題は？

①より：現代文の授業で接続語を使いこなせるようにするには？

接続語を活用した作文に取り組むことができればよいのですが、当時の勤務校では難しいように感じました。そこで、書き手の目線で文章を捉え直すような取り組みをすることで、接続語の活用につながる学びとなるのではないかと考えています。

②より：随所に遊び心を発揮できる授業にするためには？

4コマ漫画を作るというような遊び心を発揮できる学びは、生徒にとっても自分にとっても、普段の授業とは違う時間という認識があるのではないかと感じています。これを普段の授業の一部にしていくには、Extensionsの学びの中に次のIdeasの学びを発見するような流れをつくり出していくことが必要なかもしれません。1年間の学びの流れをしっかりとデザインしておくことで、遊び心を随所に発揮

しながら学んでいくことができればと考えています。

④より：異なる「文脈」への当てはめを継続的に続けていくには？

異なる「文脈」への当てはめを継続的に扱うことで、文章との「距離」のとり方を身につけ、批判的な読みへとつながるのではないかと感じています。しかし、他教科や他科目についての理解も必要になるので、準備に時間が必要となります。担当者どうしで情報を共有し、役割分担しながら進めることが必要だと感じました。

《参考文献》

- 1 佐藤雅彦 (2011) 『物語を発現する力』「考えの整頓」暮しの手帖社 ,p.45-55